

浜松観光ボランティアガイドの会

加藤先生講演会 天守の出現～その歴史と変遷

真夏のような暑さとなった6月17日(火)、浜松市地域情報センターにて加藤理文先生の講演会が開催され、82名の会員が参加をしました。

昨年の「石垣」に続いて、本年も「天守の出現～その歴史と変遷」と題した加藤理文先生のお話をたいへん興味深く聴くことができました。

「天守」という言葉の始まりは、江戸時代以降との事です。それまでは「殿主」「殿守」「天主」などと使われていて、いずれも「てんしゅ」と読まれていたようです。

足利将軍家邸宅「花の御所」は、築地塀で囲まれ、堀や瓦は無粋なものとされていました。

信長は、人の入れる一番高い建物・足利家の金閣よりもすごい建物を建てることを考えたようです。



二条城についての説明

天守の初見は、永禄12年(1569)～元龜年間で、信長の命で築いた城で、二条城・坂本城・勝竜寺城・高槻城・岐阜城とされています。瓦も信長の許可制で、一定の成功を収めた者が、使うことができました。勝竜寺城跡・坂本城跡・小丸城跡出土の軒丸瓦は、同じ型を使って作られていたようです。

初期の天守は、建物の上に望楼を載せた形だったとされて、石垣の技術も低く、角が直角ではなく歪んでいました。これは、犬山城等に見られます。形も正方形だけではなく長方形もありまし



高山城についての説明

た。大野城や高山城なども今のイメージと異なる城だったようです。

織田政権では、身分ではなく力を見せることを天守で示しました。しかし、信長死後に「天守の考え」が統一されていなくて伝わらず、秀吉・家康とも違う方向への天守を作っていくことになりました。織田宗家の城が岐阜城で、信長の城は安土城です。大坂に造る予定の城が、信長の完成形だったとされているようです。

天守の形式は、四分類とも言われますが、独立式が最終形とのことです。

浜松城も松江城と同じように元は複合式であったのは、ご存じの通りだと思います。

その他にも興味深いお話が、多くなされました。今回、「天守」を改めて違う考えから確認することができました。

また、質疑応答では、質問がいくつかなされ、大変有意義な講演会であったと思います。

中ブロック 鈴木孝久



信長の城 安土城について説明

犀ヶ崖資料館 10 周年記念イベント

犀ヶ崖資料館は、2015 年 4 月 1 日に旧宗円堂を建て替えリニューアルオープンし、今年 10 周年を迎え、記念イベントが開催されました。

6 月 4 日(水)、10 周年記念ウォークは、心地よい曇り空の下で一般申し込み者 26 名が、浜松城公園せせらぎの池に集合し 2 班に分かれて、鎧掛松～普濟寺～西来院～犀ヶ崖資料館に向けてスタートしました。



普濟寺山門にて

チラシを見て友達と参加したという女性は、「小学校の遠足以来 50 年振りにこのコースを歩いてみたい

」と思い参加した。西来院の藤棚の下で、楽しくお弁当を食べたことが懐かしい思い出としてよみがえってきた。運動にちょうどよいウォークだった」と楽しそうに話されました。

犀ヶ崖資料館誘客促進チームの坂本さんは、「最近訪客数が減ってきていることが気になっている。10 周年を良い機会ととらえ、誘客に向けた活動の一環としてこの記念日イベントを企画

した。普濟寺や西来院、犀ヶ崖は三方ヶ原の戦いや家康公に深い関係があるため、浜松城を訪れる観光客に、もう少し足を延ばしてもらえ



犀ヶ崖へ向かう途中にて

るよう工夫をして、これからもアピールを続けていきたい」と熱い思いを語りました。

6 月 24 日(火)、10 周年記念歴史講座は、和地山公園集会所で開催され、大変蒸し暑い中にもかかわらず一般申し込みの 35 名が耳を傾け



記念歴史講座の様子

ました。第一部「三方ヶ原の戦い」は、前資料館部長の織田さんが、開戦地などについて大きな地図を広げ説明しました。第二部「遠州大念仏」は、保存会会長の生熊さんによる道具などの説明があり、実際に双盤の音を体感することもできました。

広報部 伊藤英典(東ブロック)

高羽百代(北ブロック)

東ブロックミニ研修 古地図と写真を片手に浜松城城郭を巡る

5 月 31 日(土)9:30～東ブロックミニ研修「古地図と写真を片手に浜松城城郭巡り」を実施しました。東ブロック 10 名、西ブロック 6 名、中ブロック 3 名の計 19 名で、中ブロックから資料提供があった「鉄砲長屋跡」「玄黙寺跡」をルートに追加しました。

城郭の遺構はそのほとんどが現存しておらず、位置など古地図を見ながら想像・推定しますが、人によってイメージにかなり違いがあり、それを話し合うのも楽しいです。

最初に明光寺口へ行きました。位置の特定は、人によって道幅程度の差がありました。

次に、元城町東照宮では、桶田さん提供の終戦



終戦直後の元城町東照宮

直後の写真を見てあせんとしました。戦禍で社殿が焼失、境内の老樹も焼けユーカーの木も無く、裸になってしまった写真と現在を見比べま

した。それから、玄黙口と名付けられる元となった玄黙寺跡と表示されている木柱を見ました。

瓦門の所では、「門を出ると馬場があった」「門を入ると馬場があった」と、説明する人によって異なりましたが、後で調べたら馬場が数力所あり、いずれも正しいことが分かりました。

その後、鉄砲長屋跡を目指しました。その道筋を探すため、ピオラ田町の北側のタイムスリップしたような雰囲気



鉄砲長屋跡の木柱

の細い道を通るときに、「声を出さないよう静かに行きましょう」と声がかかり、興味津々でわくわくした気持ちになりました。今回参加した大部分の人は、初めてここへ来たのです。

さらに、大手門東側の隅櫓付近へ行きました。さて、「どこに隅櫓があったのでしょうか？」人によって見解にかなり激しい差があり、何が正しいかは分かりませんでした。

最後に、高札場跡に行きました。谷島屋連尺店がちょうど当日で閉店するとのことでした。帰りは、榎門跡・包丁堀跡はこの辺かなと思いつつ、太鼓櫓、清水口、鉄門を經由して帰りました。

心配していた雨も降らず散策に良い天候でした。
東ブロック 戸塚正康

西ブロックミニ研修 磐田観光ボランティアと巡る見付宿

前日までの雨予報が変わり心地よい風に包まれた 5月25日(日)、西ブロック12名、他ブロック5名が見付駐車場に集合し、磐田観光ボランティアふれあいガイドの会の皆さんと合流しスタートしました。まずは旧見付学校へ。基



磐田観光ボランティアふれあいガイドの会の皆さん

礎の石が丸いのご存じですか？横須賀城から運ばれたものと伝わっています。続いて狛兎(こまと)が並ぶ淡海国玉神社(おうみくにたまじんじゃ)、鳥人浮田幸吉の墓や見付端城跡の土塁が残る大見寺、徳川家康公寄進の釣鐘がある宣光寺から見付天神とも呼ばれている矢奈比賣神社(やなひめじんじゃ)を参拝し、つつじ公園で昼食です。

腹ごしらえをした後は、街道一里塚を過ぎ城山球場に着くと、野球少年のにぎやかな声が聞

こえます。ここは家康公が途中まで築いた城之崎城跡です。続いて安倍晴明が暴風雨鎮静の祈禱をしたと伝わる福王寺、さらに住宅街を行くと清らかな湧水が流れる場所にたどり着きました。犀ヶ崖資料館の勝軍地蔵尊ゆかりの旧安間平治弥邸です。屋敷に流れる清水には家康公もたびたび休息に訪れたそうです。

近くの今之浦にはお海戸さまと呼ばれる雷三社があり、このすぐ近くに流れ着いた神様をお祀りしたと伝わっています。最後に、歌舞伎「白波五人男」頭領のモデル日本左衛門の墓がある見性寺を訪れました。



矢奈比賣神社(見付天神)

今回、全行程およそ7km(1万6千歩)でしたが、磐田のガイドの皆さんの解説のおかげで、楽しく充実した研修となりました。

西ブロック 兼田涼香

南ブロックミニ研修 舞阪宿を歩く

5月21日(水)、10時15分に浜松駅在来線改札口前に集合して、電車でまずは弁天島まで。この日の参加者は南ブロック17名、他ブロック4名の総勢21名で、弁天島の駅からは4グループに分かれて見学。弁天島駅は海水浴場直結の駅で、最初は臨時駅として始まったそうです。降りたら本当にすぐ目の前が海でした。天気は曇りで蒸し暑く、浜名大橋は霧で全貌が見えないほどでした。

赤い鳥居や句碑を見てから(船に乗って中州に渡れるんですね!)、北雁木(きたがんげ)から道路に上がり、東に向かうと間もなく脇本陣に到着。いろいろ説明していただき、一つひとつ部屋を見ていきましたが、奥行きがあって広く、またきれいに維持されていて感動しました。さら



蔀戸の開閉実演

には蔀戸(しとみど)の開閉を実演してくれて、その合理的な造りに皆興味津々でした。その脇本陣で舞阪郷土資料館館長の荒熊さんと合流し、以降は荒熊さんの説明を聞きながら町を散策しました。

12時半過ぎに舞阪郷土資料館、図書館に到着しました。昼食後は資料館を荒熊さんの解説で見学。まず、岐佐神社の享和2年(1802)に作ら

れたお神輿が資料館内に展示されていて、お祭りの時にはこちらから運び出されて活躍することに驚愕。また舞阪の産業の変遷などについても説明がありました。海苔の養殖を始めたことが舞阪に富をもたらし、創始者の森田屋さんは神様になって祀られていました。

午後は、岐佐神社、宝珠院、養泉寺を回り、見付石垣で荒熊さんと別れた後は、白王稲荷見学後、波小僧にあいさつして、東海道五十三次を京都から日本橋までたどりながら松並木を通り抜け、予定より少し早い15時過ぎに舞阪駅に到着。

私の万歩計ではすでに1万5千歩。

途中で天気が良くなって日差しも強く、暑くなりましたが、帰り際にしらす干しをさりげなくゲットする人もいて、皆それぞれに舞阪宿の研修を楽しんでいました。

南ブロック 松沼素子



脇本陣 特別に設置された提灯



岐佐神社の階段にて

新入会員の入会動機



私はこれまで13年間、添乗員として旅し、多くの方々と出会いながら仕事をしてきました。旅をすることや、新しい人と交流することが大好きで、その経験を活かして浜松の魅力を伝えられたらと思っています。

歴史や文化など、まだまだ知らないことばかりですが、学びながら一緒に楽しくご案内していきたいと考えています。人と人とのつながりを大切にしながら、活動できれば嬉しいです。家事をしながら、コテンラジオをきいて歴史を勉強中です！これからどうぞよろしくおねがいします。

西ブロック 高橋里実



5年前に浜松市に引っ越して来ました。磐田市掛塚→袋井市→京都と転々として多分最後になるかと思えます。京都は都だった事もあり、全てが観光名所であり、町を歩いていても歴史が感じられる場所がたくさんあり、それらが「見て楽しめる場所」としてありました。浜松は何があるのでしょうか？「浜松は何もない」「見て楽しめる場所」として存在していない。そんな浜松の事を知りたくて入会させていただきました。ヨガを13年続けてインストラクターの資格をとりました。歴史と旅行が好きで日本48都道府県を全て、足を踏み入れようと思っています。四国のお遍路を区切り打ちで歩いています。お遍路経験者のお話を聞かせていただきたいです。

中ブロック 堀内玉乃



以前ボランティアをしていた時知り合った方からおさそいがありはりました。手続きの時も駅のボランティアの方、城のボランティアの方に手伝っていただきまして、よかったです。浜松のことをいろいろな人におききして、自分なりに勉強して伝えていくようにしていきますのでよろしくおねがいします。

歴史が好き。

中ブロック 石井浩美

6月のガイド活動 <明るく楽しくやらまいか>

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

「浜松城」	17日 火	浜松市立西小学校	58名	
5日 木 住友金属鋁山労働組合総連合会	20日 金	浜松市立村薮小学校	15名	
5日 木 浜松市立中瀬小学校	20日 金	浜松市立砂丘小学校	13名	
12日 木 島田市大津高齢者学級	26日 木	浜松市立中ノ町小学校	51名	
12日 木 シティライントラベル	24名	「浜松まつり会館」		
13日 金 浜松市立伊佐見小学校	3日 火	浜松市立広沢小学校	133名	
20日 金 浜松市立砂丘小学校	3日 火	浜松市立中部学園初等部	93名	
「犀ヶ崖資料館」	13日 金	浜松市立曳馬小学校	108名	
5日 木 浜松市立飯田小学校	14日 土	全矢崎労働組合	43名	
12日 木 浜松市立鴨江小学校	26日 木	YMCA 名古屋日本語学院	106名	
13日 金 浜松市立初生小学校	60名	「同行ガイド」		
13日 金 浜松市立光明小学校	11名	25日 水	浜松市立東小学校	60名

はままつ案内人会報 276号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中央区元城町 100-2 (浜松城内)

TEL 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ <https://www.hama-svg.jp/>

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地